

埼玉県教育委員会教育長賞

行田市立長野中学校 三年 久賀 莉緒

税金の木

私の家の前には桜並木があります。毎年、桜が満開に咲いていましたが、ここ数年で次々と木が枯れてしまいました。不思議に思った私は木を見ると幹に穴が開いていて下に木屑が落ちていました。市の広報によるとクビアカツヤカミキリの仕業でした。

ある冬の夜、自宅のインターホンが鳴り、通行人の人が「木から煙が出ている。」と教えてくれました。ビックリして見に行くと、桜の木から煙が出ているのが分かり、父がホースで水をかけたけれどなかなか消えず、火の粉がでているのが見えました。すぐさま母が消防に連絡し、まもなく消防車が到着しました。消防士が消火活動を行い、放火の疑いがあるため警察も来ました。その一件の後、その木の所有者である環境課の人も来ました。

この燃えた木の他にも枯れて燃えやすい木がたくさんあります。枯れた木がまた燃えたら嫌だなという話を母にしたら思いもよらない言葉が返ってきました。

「消防、警察、市の環境課の人たちが働いてくれるのは税金のおかげよ。桜の木も税金で植えられていて、そこに群らがるクビアカツヤカミキリの駆除にも税金が使われているんだよ。」

桜の木を守っていたのは税金のおかげだったんだ、と驚きました。私は今まで税金は大人が払うもので自分には遠いものだと思っていましたが、母の言葉で税金は桜の木一本にまで使われていてとても身近なものなんだなと思いました。

学校の授業でも税金について習いました。道路の整備やゴミの回収、学校の運営や病院のサポートなど、さまざまな場面で税金が使われていると知って、また驚きました。

税金は「お金を取られるもの」ではなく、「みんなで安心して暮らすためのお金」なんだと、あの火事の日に教えられた気がします。将来、私も大人になって働くようになったらしっかりと税金を納めて、次の世代が安心して暮らせる社会を支える一員になりたいと思います。

月日が経ち、桜並木に植えられていた燃えた木を含め、ほとんどの木が枯れて木の枝が落ちて危ないということで伐採され切り株だけになっていました。その伐採する費用も税金でまかなわれていました。燃えた木の切り株にはこんがりと焼けた跡が今も残っています。この木たちは税金によって育てられ、助けられ、死んでいった。まさに「税金の木」です。

焼け跡のある木を見るたびもしもあの日、消防車が来なかったらどうなっていただろう。もしも税金がなかったら、私の家も、命さえも危なかったかも知れない。と思います。

今年の春、桜並木に残された一本の「税金の木」はそんな私の思いに応えるように、立派に満開の花を咲かせ、税金による明るい社会を照らしてくれたような気がしました。